

---

# サンタさんが教えてくれた

蒼空

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

サンタさんが教えてくれた

### 【Nコード】

N8146Z

### 【作者名】

蒼空

### 【あらすじ】

僕は小鳥。カゴから逃げ出した。

僕は泣きたい。泣きたかった。

僕は小鳥。

夏も終わりの頃、僕は逃げ出した。風通りが良いカゴから、空高く舞いたくなって、壊れたカゴの隙間から飛び出した。

外から見るそれは窮屈で、錆びかけているように見えた。そして、上を見上げれば空はどこまでも続いていて綺麗だった。

ご主人さまは見ていた。どうしようかと、不安な色を目に宿して。僕に手を伸ばす。

さよなら、ご主人さま。

僕は飛ぶ。優しかったご主人さまは悲しそうだったけど、もう一度捕まえようとはしなかった。

僕は新たなご主人様が居た。笑いが絶えなくて、ドジだけど、愛してくれてた。

そうだ、愛してくれてた。

心から大事にしてくれていた、”ご主人さま”は。比べてしまう。与えてくれる言葉、愛し方。きっと僕が気付かなかっただけで、たくさんたくさん愛して大事にして、空に飛ばせてくれたんだ。

ある日、僕は怪我をした。不安で不安で悲しかった。

泣きたいと思った。でも、泣けなかった。

あなたじゃない。

あなたは、泣かれたら困るなって言った。でもそれだけじゃない。あなたじゃないんだ。

安心して僕が泣けるのは”ご主人さま”だから。

もう遅いね、ご主人さま。あなたは待っていてくれるでしょうか。

戻りたい、あなたに会いたいと思うのは僕の身勝手だ。  
僕が自分で逃げて、また求めるのだから。

これだけは言いたい。

愛してくれてありがとう。

あなただったのです。本当に安心できる場所だったのは。

サンタさんが雪と一緒に教えてくれました。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8146z/>

---

サンタさんが教えてくれた

2011年12月25日23時52分発行